

令和 4 年 2 月 10 日時点

(1) 事務事業の概要			
① 事務事業の期間		② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない	
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 17 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 令和 年度まで		・市内中小企業者に対し経営の合理化等を図るため、取扱金融機関へ原資を預託し、その10倍を限度額として市内の中小企業者へ事業費等の融資を行う。 ・融資を受けられる限度額 事業資金(運転資金) 1,000万円、事業資金(設備資金) 2,000万円 小規模事業資金(運転資金、設備資金ともに) 500万円 ・平成29年度融資利率 1年以内 2.20%、1年超～3年以内 2.55%、3年超～5年以内 2.75%、5年超～10年以内 2.95%	
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状		④ 事務事業に関する課題・環境の変化	⑤ 事務事業に対する住民からの意見等
・市内中小企業者の資金調達を円滑にし、健全なる経営発展を図るため開始		・東日本大震災や長引く景気の低迷を受け、中小企業者を取り巻く環境はますます厳しいものとなっている。	・金融機関から預託金増額と1件あたりの融資上限額の拡大の要望がある。

従事職員数	常時	1	人	最大	1	人	×	1	日	=	延べ	1	人
-------	----	---	---	----	---	---	---	---	---	---	----	---	---

手段	① 主な活動 2年度実績(2年度に行った主な活動) 取扱金融機関へ原資を預託し、その10倍を限度額として市内の中小企業者へ事業費等の融資を行う。		⇒								
				③ 活動指標名	単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	1年度 (実績)	2年度 (実績)	3年度 (計画)	
				ア	新規融資件数	件	42	43	54	12	45
				イ	パンフレット配架場所数	ヶ所	20	20	20	20	21
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)		⇒								
	対象 意図	市内の中小企業者 円滑な資金調達により、健全な経営発展が図られる。		④ 成果指標名	単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	1年度 (実績)	2年度 (実績)	3年度 (計画)	
	対象 意図			ア	年度末融資件数	件	215	205	203	153	231
				イ	年度末融資総額	千円	808,665	709,772	708,057	490,006	800,000

		コスト比率		
		下位 1/3	中位 1/3	上位 1/3
成果優先度 評価結果	①			
	②			
	③			
	④⑤			
	⑥			
	⑦⑧			
	⑨	(7)		

年度	ア (人数)	イ (人数)
H29	220	800,000
H30	205	700,000
R1	205	700,000
R2	150	450,000
R3計画	235	800,000

評価内容	① 進捗状況 ☐ 完了 ☒ 順調 ☐ 概ね順調 ☐ 停滞 ☐ 実施困難 【コメント】 (停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)															
	② 成果の状況		成果指標ア	成果指標 のタイプ		数値増＝成果向上	☐ 向上	☐ 横ばい	☒ 低下	成果 比較 動向	比	28年度	29年度	30年度	1年度	2年度
			成果指標イ		数値増＝成果向上	☐ 向上	☐ 横ばい	☒ 低下			29年度	30年度	1年度	2年度	3計画	
			本制度より有利なコロナ対策特別融資を利用する中小企業者が増加したため。						ア		△11	△10	△2	△50	78	
									イ	△32,366	△98,893	△1,715	△218,051	309,994		
③ 今年度取組事項 (3年度に取り組む主な 事項について記載)		時期	内容			今後の 方向性	☐ 拡大 ☐ 縮小		☒ 現状維持 ☐ 廃止・休止	☐ 見直し ☐ その他()						
		R3.10月頃	制度融資のPRを行う。				R3.5月		現在は有利なコロナ対策特別融資があるため、その制度終了後に本市制度融資のPRを行う。							